

# 五代友厚

Tomoatsu Godai

薩摩藩英国留学生がイギリスに渡った慶応元(1865)年から150年後の今年、NHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」で主人公・あさの事業家としての師と描かれる五代友厚。五代友厚は、薩摩藩士の子として生を受け、幼いころから才能を発揮、若くして長崎での遊学や上海への渡航なども経験していたが、薩英戦争では英国の捕虜に。その後、経験と的確な建言から薩摩藩英国留学生を率いる。帰国後、明治維新を経て官僚から実業家へ転身。混乱していた大阪の商業の発展に努めた。その分野は紡績、鉱山経営、教育など多岐にわたる。

西暦	月	年齢	出来事
1835	12	1	■ 薩摩国鹿児島郡城ケ谷に生まれる。
1842		8	■ 児童院の学塾に入る。
1846		12	■ 藩の聖堂に入り、文武の業を修める。
1848		14	■ 世界地図を模写し、地球儀を作る。
1853	6	19	■ ペリー来航。
1857	2	23	■ 藩伝習生として長崎海軍伝習所で学ぶ。
1858	10	24	■ 7月に斉彬公逝去のため、薩摩へ帰国。
1859	5	25	■ 再び長崎にて遊学。上海へ渡航し、蒸気船を購入。
1862	8	28	■ 生麦事件発生。
1863	7	29	■ 薩英戦争勃発。松木弘安(寺島宗則)とともに捕虜となる。
1865	3	31	■ 薩摩藩英国留学生を率いて渡欧する。
1866	1	32	■ 薩長同盟締結。
	2		■ 山川港へ帰着。
1867	1	33	■ 小松帯刀、グラバーとともに小菅修船場の建設に着手。
1868	2	34	■ 外国事務判事として大阪へ赴任。
			■ 堺事件やパークス襲撃事件などを解決。
	5		■ 初代大阪税関長に就任。
	9		■ 大阪府判事となり、大阪府政を担当する。
			■ 大阪造幣寮の設置を進言。
1869	5	35	■ 会計官権判事として横浜行きを命じられるが2ヶ月で退官。
			■ 大阪為替会社、通商会社の設立に尽力する。
1870	4	36	■ 藩より堺紡績所を任される。
1871		37	■ 廃藩置県、岩倉使節団渡米。
	4		■ 大阪造幣寮竣工。
1873	1	39	■ 弘成館の設立。
1875	1	41	■ 大阪会議の開催。
1876	8	42	■ 堂島米商会所の設立。
	9		■ 朝陽館の設立。
1877		43	■ 西南戦争勃発。
1878	4	44	■ 大阪株式取引所の設立。
	8		■ 大阪商法会議所の設立。初代会頭に就任。
1880	11	46	■ 大阪商業講習所を設立。
1881	5	47	■ 大阪青銅会社(後の住友金属工業)の設立。
	6		■ 関西貿易社の設立。
1882	7	48	■ 共同運輸会社の設立。
1884	2	50	■ 大阪堺鉄道の設立。
1885	9	51	■ 籍を鹿児島から大阪へ移す。
			■ 9月25日、東京の自邸にて逝去。

## 鹿児島県内ゆかりの地

### 五代友厚誕生地

現在の鹿児島市長田町城ケ谷。天保6(1835)年、薩摩藩の儒官で『三國名勝図会』の編纂者として知られる五代秀堯の次男として生まれた。



### 五代友厚銅像・若き薩摩の群像

没後満75年に大阪の人から寄贈された像が鹿児島市泉町・泉公園に建つ。鹿児島中央駅前にある薩摩藩英国留学生の像「若き薩摩の群像」の一つとしても建っている。

### 鹿児島紡績所跡

留学生らとともに欧州へ渡った五代友厚と新納久修が機械の買い付けや技師の派遣交渉を行い完成した日本最初の機械紡績所の跡地。



## 長崎ゆかりの地

23歳のとき長崎海軍伝習所に伝習生として訪れ、勝海舟らとともに航海術や砲術、測量などを学ぶ。その後も薩英戦争後に潜伏したり、小菅修船場の建設に関わるなど、ゆかりの深い長崎である。

### 長崎海軍伝習所跡

五代が藩伝習生として医学や砲術、造船航海術などを学んだ場所。講師であったカッテンディーケはのちに薩摩を訪れ集成館を見学している。

### グラバー邸

薩英戦争前に上海で蒸気船を購入した際関わり、その後薩摩藩英国留学生を羽島から旅立たせた船・オースタライエン号の手配、小菅修船場の建設、のちには大阪造幣寮の機械購入の世話など長きに渡ってグラバーとは交流があった。



### 小菅修船場跡

グラバーがスコットランドから運んだ最新鋭の蒸気機関での巻き上げ機を据えた、日本初のスリップドック。蒸気船を購入し始めた薩摩藩は、燃料の石炭を唐津藩から山ごと購入(文久2年)、そして船の修船場を長崎に建設した(明治元年着工)。これらすべてに五代が関わっている。



## 大阪ゆかりの地

明治元(1868)年外国事務局判事として初めて訪れた大阪。翌年、会計官判事として横浜行きを命じられるが、2ヶ月で退官し、その後、造幣寮(現:大阪造幣局)や大阪株式取引所(現:大阪取引所)、大阪商法会議所(現:大阪商工会議所)、大阪商業講習所(現:大阪市立大学)の設立など、大阪で商業の発展に尽力することとなる。大阪市内の4ヶ所に五代友厚の銅像があり、「近代大阪経済の父」として現在でも尊敬されている。

### 五代友厚邸跡(現:大阪科学技術館)

五代友厚の大阪最初の自邸跡。昭和35年に取り壊され、現在は大阪科学技術館となっている。

### 西朝陽館跡

五代友厚が力を入れた、製藍工場であった場所。

### 大阪通商会社・大阪為替会社跡

各藩が行っていた外国貿易等を一括で管理するため明治政府が東京、大阪、京都、堺と各条約港に通商司を設置し、監督下に為替会社と通商会社を設けた。五代は大阪財界に強く働きかけ、これを設立。

### 大阪商法会議所(現:大阪商工会議所)

明治11年に財界指導者の有志が集まり、大阪府知事に願書を提出し創設された。初代会頭は五代が務め、銅像も建つ。

### 五代友厚旧邸・弘成館(現:日本銀行大阪支店)

最晩年の半年ほど暮らした中之島の旧邸。弘成館は五代が鉱山開発に積極的に取り組んだ際、鉱山管理の管理事務所として開かれた。

### 大阪株式取引所(現:大阪証券取引所)

明治7年に明治政府が東京に取引所を設置。五代らは大阪への設置は延期と改正を要望し、明治11年に設立。

### 花外楼

大阪会議の開催の地。大阪会議とは、明治6年の政変以後、実権を一手に握った大久保利通と、政治から距離を置いた木戸孝允が和解した会議。五代友厚と伊藤博文が仲介役となった。

### 五代友厚墓地

大阪市設南霊園(阿倍野墓地)にある。

